

市民のくらしと 小樽観光

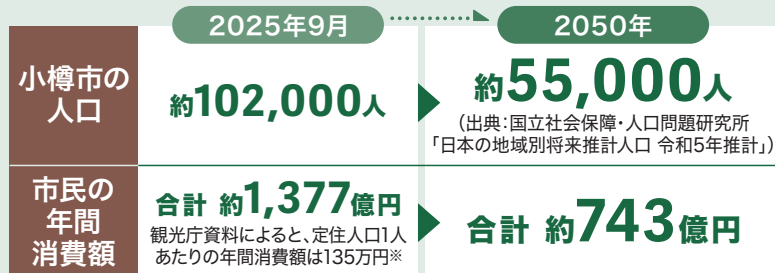
観光は、人々の心や人生を豊かにし、地域の経済発展や雇用の促進につなげ、市民のくらしを豊かで実りあるものにします。

一方で多くの観光客が訪れることで起きる、市民生活への影響などの観光課題もあります。

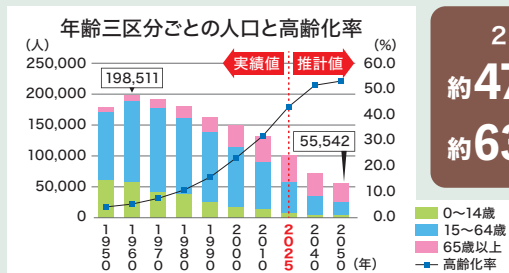
ここでは、観光が私たちのくらしや産業・経済とどのように関わっているのかをご紹介します。持続可能な小樽観光を市民と一緒に考えます。

小樽の現在と未来

小樽市は毎年人口が約2,000人減少しています。このまま進むと2050年には…



※総務省「家計調査」による



※国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所推計

25年間で…
約47,000人
約634億円



人口が半分に減少し、高齢化率は53.1%となる推計です。
地域の経済が縮小し今の生活を維持することが難しくなります。

そこで!

観光は小樽経済の牽引役!

減少する人口を補う対策のひとつとして、観光客などの交流人口を増やすことが大切です。

観光客が1年間に市内で使った金額

年間
約1,062億円

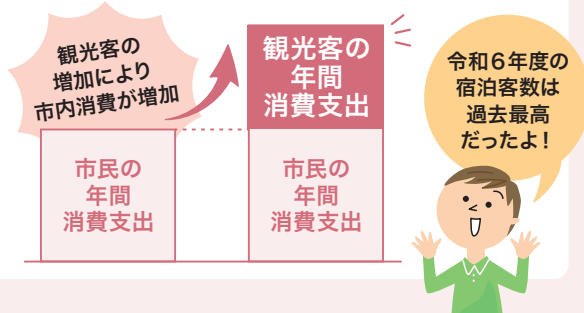
(出典:令和5、6年度
小樽市観光客動態調査)

市民の年間消費支出の
約78,000人分

観光庁資料によると、定住人口1人
あたりの年間消費額は135万円※

※総務省「家計調査」による

市民と観光客の年間消費支出の割合



観光による 雇用効果

観光客の増加は、宿泊施設や飲食店、交通機関、お土産店など幅広い分野で雇用を生み出します。

新たな働く場ができることで市民の収入向上や安定につながり、地域経済も活発化します。

観光は地域全体に利益をもたらし、くらしをより豊かにする大切な力となっています。

雇用
誘発数 約13,000人

(出典:令和2年度小樽市観光基礎調査報告書)

観光客1人が市内で使った金額

観光客
全体
(宿泊有) ▶ 約33,000円 外国人
(宿泊有) ▶ 約63,000円

(出典:令和5、6年度小樽市観光客動態調査)

就業者の

3人に1人 29%に相当

※令和2年国勢調査「労働力状態」から試算

インタビュー

大学進学で小樽を離れ、約30年後にUターン。本業の社会保険労務士のかたわら、通訳案内士(中国語)やおたる案内人マイスターの資格をいかし、地域貢献のため観光ガイドなどのボランティアをしています。まわりには小学生や高校生のボランティアも多く、観光を通して地域への愛着が深まり未来を担う力になってほしいですね。

〈観光ボランティア 加藤久善さん〉

観光客が増加したことにより、ホテル建設や観光施設の新築・改築などの仕事が増えています。関連会社で稲穂の屋台村の経営も行なっていますが、地元と観光客の割合は約5対5。地元の方と観光の方が仲良く話している光景をよく目にします。そのまま2次会で花園町に流れてもっと経済効果が出るよう力を入れていきたいです。

〈市内建設業・西條産業〉

私たちのくらしにつながる観光

観光客が訪れることで、まちが活気づきます！

北海道観光入込客数(令和6年度)

第1位 札幌市	第2位 小樽市	第3位 函館市
1,525.7万人	806.9万人	602.2万人

※出典：北海道経済部観光局『北海道観光客入込客数調査報告書 令和6年度』

小樽市内の宿泊客数の推移



令和6年度の宿泊客数は、統計開始以来2年連続で過去最多を更新！

修学旅行で選ばれるマチ

全国の多くの学校から
修学旅行先として支持されています。

宿泊する
修学旅行学校(年間) **148校** (令和6年度)

宿泊税を活用した まちづくりが始まります

小樽市では令和8年4月から宿泊者1人1泊につき200円を徴収する「宿泊税」を導入し、小樽観光の魅力向上や旅行者の受入環境の充実を目指します。持続可能な観光振興の取組を進めることで、宿泊客の増加、宿泊税の増収、そして宿泊需要の拡大という好循環を生み出し、地域経済の更なる活性化を目指します。

～観光が盛んになれば、まちが元気に～



観光客と全然関係ないと思っていた産業にも、観光の恩恵があるんだ！

普段気が付かないけど、観光って、わたしたちの生活にとても役立ってるんだね！

観光客のご利用は鉄道による地域の観光事業全体の活性化につながり、当社の大切な収入源であると考えています。札幌や新千歳空港と結ぶ快速エアポートの指定席のご利用も多く客単価の増加にも寄与しています。また、安全確保やサービス向上のため警備や通訳、案内スタッフ等の雇用増、駅構内のテナント様からも飲食店の売り上げ増、後志地域の商品の販売を通じた商品の認知度向上や生産者にお金が回ることで地域貢献していることを実感しているという声もごございます。〈JR小樽駅〉

今年4月に新千歳空港線の運行を開始しました。こちらはぜひ、地元の方にもご利用いただければと思います。また、市内線では、特に冬の利用が増える天狗山線とおたる水族館線の2路線を、今年12月から増便(冬期間のみ)しますので、普段ご利用の皆様にも便利です。他にも、小樽ターミナルに発車時刻や運行状況を確認できるモニターを設置。観光需要の増加は、市民の皆様の利便性向上にもつながっていると思います。

〈北海道中央バス〉

観光が発展することで 地元商店の成長や 従業員雇用に つながります。



『観光』の語源は他国の自然や文化、風景を観ること。
市民が育てた文化があるからこそその小樽観光です。

小樽の海や山などの自然環境に
愛着を持っている市民の割合 **88.4%**

小樽のまちなみに愛着を
持っている市民の割合 **79.3%**

観光客に伝えたい小樽の良さが
あると答えた市民の割合 **67.9%**

(出典：第7次小樽市総合計画基本計画各施策指標 令和7年度市民アンケート)

「はんこ」が外国人に人気

店舗内で行う落款(石のはんこ)の製作体験に、海外から観光で訪れている方の参加も多く、「特別な体験ができた」と喜ばれています。人口が減り、はんこの需要自体も減っている昨今、観光客の製作体験は売上の大きな要。

様々な国の方との異文化交流を楽しんでいます。



稲穂・松田印判店
松田 有未さん

半分位が市外からのお客様

ここ10年でお客様の層が大きく変わりました。地元の方中心の市場が閉鎖するなどのマイナス要因を、今は売上の半分位を市外客増加で補っています。創業約110年になりますが観光のお陰でこれからも長く小樽で続けていきたいです。



入船・大八栗原蒲鉾店
会長 栗原 康さん

商品の増産やスタッフの増強

地元のお客様のほか、近年はSNSでの情報発信による効果や、市外、道外、海外から観光で訪れるお客様の需要が増え、商品の増産が必要になっています。職人を育成しながら増員し、本店や支店の販売スタッフも増員するなど、製造、販売体制を充実させています。



花園・みなともち
社長 中山 豪さん

恩恵は販売と外国人との交流

都通り商店街全体で、飲食・物販など多くの業種で観光客の恩恵を受け、店舗の持続可能性が高まることで市民にも利便性が高まります。当店では、外国人観光客に「どちらの国の方ですか？」と必ずお聞きします。市民の皆さんにも観光客との交流をおすすめします。



小樽都通り商店街振興組合 理事長
スズキ洋品店 社長 鈴木 創さん

願いは堺町から全市に広がること

観光のお客様が多い堺町通りに店を構えて14年。コロナの時には一人もお客様が来店されなかったこともあり、地元のお客様に助けられました。今の堺町のお客様が都通りや花銀など、他の商店街に流れて小樽全体が盛り上がってくれるといいですね。



堺町通り商店街・小樽たけの寿司
武田 賢一さん 紗智さん ご夫妻
(賢一さんは平成4年千葉県より移住)

観光の力でガラス工房が安定

小樽市内のガラス工房は観光に支えられている工房がほとんどです。観光の力でガラス工房を安定的に営むことができ、それにより市内の全小学6年生を対象にした卒業記念ガラス体験を実施できました。



祝津・KIM GLASS DESIGN
木村 直樹さん
(平成16年北見市より移住)

✕ キリトリ ✕

郵便はがき

85円
切手を
貼って
下さい

0 4 7 - 0 0 3 1

小樽市色内1丁目9番6号
株式会社オー・プラン内
(受託事業者)

市民のくらしと小樽観光係 行

※無記名でも構いません。

【差出人】 記入日 年 月 日

ご住所 〒

お名前

年齢

歳

✕ キリトリ ✕



小樽観光の課題と対策

近年発生している一部観光地の混雑やマナー問題などの観光課題に対応するため、様々な取り組みを行っています。



混雑対策

国、北海道、小樽市のほか交通事業者や市民団体などの10団体による「小樽市オーバーツーリズム対策連絡協議会」が令和7年2月に発足しました。地域一体となった体制で対策を協議し、市民の安心快適なくらしと両立する、より良い観光のあり方を検討します。混雑対策やマナー違反行為の防止・抑制など、国の補助金を活用した取組みが具体的に始まっています。

具体例

- バスターミナル等での多言語化の推進
- 大きな荷物を持ってバスやJRに乗らない「手ぶら観光」の推進
- 駅や人気スポットでの警備員の配置
- 人流データを活用した混雑状況の把握

時間・場所の分散化を推進しています。



朝活マップ

朝の景色や朝営業している店舗等を紹介しています。



ナイトマップ

花園町を中心に夜営業している店舗等を紹介しています。

マナー対策

各種ポスターや動画を作成して、観光客のマナーの啓発を行っています。

- 観光客に向けた多言語対応注意喚起ポスターの作成、発信
- 観光客に向けた多言語によるマナー啓発街頭放送の実施
- 海外インフルエンサーを活用したSNS動画作成



- マナー啓発用PR動画の作成(左はイメージ)

小樽観光に関するアンケートにお答えください。

問1

本紙を読んで小樽観光の現状が伝わりましたか。

- ☐ 伝わった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ 伝わらなかった

問2

本紙を読んで観光が地域の経済効果や活性化につながることが伝わりましたか。

- ☐ 伝わった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ 伝わらなかった

問3

市民の安心快適なくらしと両立する小樽観光のあり方について、あなたの考えをご記入ください。(未記入可)

アンケートは右の2次元コードからでもご回答いただけます

アンケート締切: 令和7年12月26日(金)



小樽観光のこれから

市民の皆さんとともに築く
持続可能な観光地域づくり

小樽市長 迫 俊哉



私は、「安全・安心なまちづくり」「活気あるまちづくり」「将来を見えたまちづくり」を公約に掲げ、市民の皆さんとともに歩んできました。観光は、本市の大きな強みであり、地域経済や雇用を支える重要な柱です。昨年度は、7年ぶりに観光入込客数が800万人を超え、宿泊客数も2年連続で過去最多を更新するなど、コロナ禍からの回復と新たな発展の可能性を示す結果となりました。国内外から多くのお客様に訪れていただいていることを、心から嬉しく思います。

一方で、観光客の集中による交通混雑やマナー問題といった市民生活への影響という課題も顕在化しています。市民生活を守りながら観光の魅力を損なわないよう、宿泊税や国の補助金を活用し、需要の分散、公共交通の改善、マナーの周知など、実効性ある対策を進めてまいります。

これからの小樽は、「選ばれるまち」として、居住・移住・観光・投資のすべての面で魅力を高める必要があります。歴史や港、自然といった資源を生かしつつ、「観光がもたらす恩恵」と「市民の安心快適なくらし」の両立による、持続可能な観光地域づくりを、市民の皆さんと力を合わせて実現してまいります。

令和7年11月

発行: 小樽市産業港湾部観光振興室

受託事業者: 株式会社オー・プラン

※本リーフレットに記載の数値は概数を含みます